

# たらばな

川崎市立橘高等学校同窓会  
会報「たちばな」第15号  
平成25年5月15日 発行  
〒211-0012 川崎市中原区中原562  
TEL 044-411-2640  
<http://homepage2.nifty.com/tachibana-dsk>

# 同窓会設立六十周年



# 女子バレーボール部 インターハイ優勝!

(詳細3面)

昭和一十八年一月「会員相互の親睦」と母校の発展に資することを目的に設立された、橘高等学校同窓会も本年60周年を迎えました。現在会員数も二万名を超えております、「同窓会は会員皆様のご協力と学校のご支援に支えられ今日を迎えることができきました。同窓会では、六月二十二日設立六十周年記念祝賀会を開催します。

今般 同窓会報第15号をお手許にお届けいたしましたので、高齢頂いてお見舞いがござりますた事務局までご一報ください。さて、本会は本年、設立60周年を迎えるました。人生でいえば「還暦」を迎えたことになります。

今年は例年になく桜を  
躊躇も咲き、爆弾低気圧  
襲来など天候がめまぐる  
しく変わり体調管理に困  
をつけなければ成らない  
日が続きましたが、今春は  
の増でまだほお変わらな  
くお過ぎしのじと存し

A black and white portrait of Wang Kang, a man with a shaved head, wearing a suit and tie, set against a circular background.

同志会設立六十周年を迎えて

現在の会員数は2万つ  
千人となっておりますが、  
既に病気や立派で鬼籍  
に入られた方々も多数お  
られます。

席戴ければ善哉です。  
ご承知のとおり本会は  
昭和28年（一九五三年）  
1月28日、「会員相互の  
親睦を厚くし情を温め、  
かつ母校の発展に資すす  
る」の理念を掲げて旧日  
中學、併設中學及び新制  
高校全体制。定時制卒業  
生を委員として発足し初  
代会長に旧中一期卒の高  
田博正氏が選任されま

今後とも同窓会活動を活性化のため、会員諸兄姉との協力を頂き、よりよい会運営を心掛け、参りますのでご支援をお願い申上げます。

尚、年度卒業同期会クラス会等が開かれておりますが、最新の住所録を事務局宛てに送付頂戴したあわせてお願ひ申し上げます。

50周年以後、震災でタツブとして若い世代が事務局員として加わり会報編集・住戸録修正、橋花祭（文化祭）展示設営などを注力しており、運営の活性化になっています。また、同窓会ホームページを立ち上げ、代議員会開催翌日や母校の近況、クラブ活動も合わせて掲載しておりますので見て

50周年記念賀会を開催し多くの会員のご参加を頂き、激励の言葉を賜りました。





# 橘高校創立70周年 祝賀会開催される

昭和十七年に創立された橘高校の七十周年の記念祝賀会が、平成二十一年一月二十六日NEC玉川クラブで学校・PTA・同窓会の共催で開催された。

当時は、歴代校長、現教職員、元教職員、PTA役員、同窓会役員等約百名の皆様の参加で盛況に行われた。

創立70周年記念祝賀会  
川崎市立橘高等学校



①



③



②



④



中丸子の現校舎



中丸子に建てられた木造校舎

# 伝統の定時制 第65回卒業式特集 54名がはばたく!

高等学校定時制通信制

教育振興会長賞

全国高等学校定時制通信制

教育振興会長賞

4年A組 吹上大智 [学習]  
 3年B組 吉田望未 [部活]  
 3年B組 桜沢真由 [生徒会]

神奈川県高等学校定時制通信制  
 教育振興会長賞 (1名)

4年A組 柴田麻耶

川崎市内定時制通信制  
 教育振興会長賞3名

4年A組 奥谷慎  
 3年B組 木村祐太  
 3年B組 益田優実

そして、答辭では往学  
 中に生徒会長を務めた  
 3年B組の桜沢真由さん  
 (写真右)が本校で過ご  
 した思い出やお辞話になっ  
 た先生方や共に過ごして  
 きた仲間への感謝の言葉



平成二十四年度の卒業  
 生は四年制課程が三千名、  
 三年生課程が二千四名の  
 合計五千四名が本校から  
 卒業していきました。  
 マルチホール全体に響  
 きわたる拍手で迎えられ

「たちばな」を書く  
 にあたり、三月一日  
 にマルチホールで挙  
 行された第六十五回  
 卒業証書授与式を取  
 材してきました。

平成二十四年度の卒業  
 生は四年制課程が三千名、  
 三年生課程が二千四名の  
 合計五千四名が本校から  
 卒業していきました。  
 マルチホール全体に響  
 きわたる拍手で迎えられ

橋高校の定時制課程  
 は、昭和二十三年に創立しました。歴史と伝統があり、創立六十五年目を迎え、現在までに三千名以上卒業生を輩出し、各分野で活躍しています。



一人ひとり、卒業証書を受け取る卒業生

ながら、堂々と胸を張り  
 卒業生は入場してきました。  
 教頭先生による開式のこ  
 とぼで式は始まりました。  
 校歌齊唱では、教職員、  
 在校生と共に歌いあがま  
 した。

卒業証書授与では担任  
 の先生の呼名のもと一人  
 一人が校長先生から卒業  
 証書が授与されるなど、様々  
 な困難や苦しみを乗り越  
 えてきて、この日を迎

今回はこの会報  
 「たちばな」を書く  
 にあたり、三月一日  
 にマルチホールで挙  
 行された第六十五回  
 卒業証書授与式を取  
 材してきました。

平成二十四年九月十二  
 日に第五十回川崎市内  
 篠学校定時制生徒弁論大  
 会が川崎市教育文化会館  
 で行われ、現在、本校の



四年A組 鈴木議隆君  
 川崎市内弁論大会で  
 見事栄冠つかむ

四年A組の鈴木議隆君  
 (写真上)が見事に優勝  
 しました。鈴木君は「私の人生の  
 物語」と題して、自身の  
 発達障害を紹介。友人と  
 の出会いを通じて悩みを  
 乗り越え、福祉の仕事が  
 将来の夢だと語った

平成二十四年九月十二  
 日に第五十回川崎市内  
 篠学校定時制生徒弁論大  
 会が川崎市教育文化会館  
 で行われ、現在、本校の

卒業式も終わりに近づ  
 き、在校生代表による送  
 辞が読みされました。卒業  
 生との思い出や感謝の  
 気氛が伝わられました。

卒業式も終わりに近づ  
 き、在校生代表による送  
 辞が読みされました。卒業  
 生との思い出や感謝の  
 気氛が伝わられました。

そこで、来賓祝辞では  
 同窓会を代表しまして、  
 鈴木正則副会長より卒業  
 生に向けて、お祝いの言  
 葉とともに、これからの一  
 生は何事にも挑戦する  
 ことが大事だとエールが  
 送されました。



先生を囲んでパチリ

平成二十四年度  
 三年制課程廃止  
 平成二十五年度入学  
 三年吉田望未

バドミントン部

女子団体戦 準優勝  
 男子二百m四位

一年 小俣大樹

男子四百mハードル三位  
 陸上定選会

男子四百mハードル三位  
 陸上競技の部

平成二十四年度  
 全国高校定時制体育大会

男子二百m三位  
 陸上部

五十四名は社  
 が伝えられました。橋高  
 会に向かって強く羽ばた  
 いていました。

そして、五十四名は社  
 が伝えられました。橋高  
 会に向かって強く羽ばた  
 いていました。

五十四名は社  
 が伝えられました。橋高  
 会に向かって強く羽ばた  
 いていました。

# 同窓会創立60周年特集



以来 山口先生と共に同窓会事務局の裏方として、長い期間、顧問として会の歩みに寄り添つてきました。其の思いもあって六十周年の歳月の巡回に著しく感懾深いものを感じております。

一期生二六二名の入学式が佐伯初代校長の下で行われました。川崎市で最も古い荒廃した学校建築、物置のようになっていた中原大戸小学校の三教室を間借りしての出発でした。ボロボロの壁で悉くそこで培われた、忍耐と友愛の輪が、二十一年三月に、四年制で卒業された旧制一類生から受け継がれ、やがてそれが、「橋」栄光の伝統になつて行きました。

A black and white photograph showing a group of people gathered in a grassy field in front of several traditional wooden buildings, likely a school or community center.

中原 大戸小学校時代の校舎

昭和二十九年（一九五四年）一月十五日、発会式を兼ねて、総会が開催されました。名譽会長に澤井測校長を推戴し、会長には高田博正氏（旧制一期）が全会一致で選任されました。副会長には、旧中、高松の代表として、高校一期の上原昭夫氏、併中、高松の代表として、高校二期の西川洋志夫氏、両氏が選任され、会計には全制から旧中三期の馬場栄一氏、定期制から吉田晴彦氏が選任されました。また、顧問には川口義郎先生が学校側から委嘱されました。またと

昭和三十一年、鹿島の委嘱を受けて以来、三代の会食とお付き合いしてきました。温浴で、豊かな包容性と人望で同窓会を設立された初代高田氏。威容を誇る全国でもまれる内部施設の充実した現校舎を目の当たり見えた時側面的とは言え、校舎の建設に多大のご尽力をされた、一代目会長桑原先生の功績は忘れる事はありません。PTAとの連携を密しながら決断と努力で会を発展させた日会長、長谷川氏にバトンを託しました。

歴代の会長の卓越した統治力と才幹に恵まれた、橘高校同窓会の歩みは同じく今年「創立七十周年」の記念事業を迎えた校史と共に、輝き続ける事を願つております。  
今は「きき同窓会設立の親、六代校長山口義郎先生、初代会長高田博正氏に、心からお礼申し上げます。  
(高校三期・同窓会相談役・橘高校退職者の会表)

突然、学校の山口義郎先生から、臨時時間講師の依頼があり、その事が縁で、再び沢井校長、山口教頭両先生のお呼びを受けて、卒業生としてほんの最初の教師として母校に着任しましたのが昭和三十一年でした。

の会合は活発に行われて  
いましたが、とりわけ、  
連盟の輪が深かつたのは、  
野球部を初めてとする運動  
部のOB会でした。後輩  
に対する後援活動の会合  
は、事あるごとに開催さ  
れておりました。こうし  
た横の広がりを継続統一  
した組織つまり、同窓  
会役として参加され、昭和  
二十七年（一九五一年）四月、中丸子地移転を契  
機に、会設立の為の準備  
委員会がこの間、数次に  
涉つて開催されました。  
糸余曲折の熱心な時間を  
かけた審議を経て、同窓  
会葬式式へと発展して行つ  
たのでした。

られた金創と、その中で  
語られた「会員相互の親  
睦、旧情を温め、母校の  
教育方針にのっとり、後  
援任じ、隆盛期する」  
という目的大綱を掲げて、  
ここに初めて、「川崎市  
立高等学校同窓会」と  
言う名称が、正式に決定  
され、発足したのでした。  
名を更に大きく述べて、開  
信させました。現在、諸  
事情により発行されなく  
なった同窓会名簿、年度  
毎のばほり名簿であつ  
たのを一人で、四五〇頁  
に亘る一冊の名簿に編集  
し作成したのも、当時役  
員であった長谷川氏でし  
た。今年六十周年の節目

# 川崎市立橘高等学校同窓会 設立六十周年の歩みを辿って

小林  
昌雄

十七年、中丸子（新）

一氏が、発起人の中心に

の会では、会構成人員の

平成十五年八月十九



五年間の年の経つのほ  
早いもので、橋中時代最  
後の日を迎えた。昭和二  
十一年三月八日卒業式で  
答辞を述べた。この日よ  
り万感の思いを胸にしめ  
校舎を後にした。



旧中一期

やがて一年が経つ。新人生が入学して来る。教室が足りないので、隣の大戸国民学校の特別教室に移つたり。大戸神社の社務所を借りて授業が行われた。教室の授業、勉強以外では先生方と全校生徒と一緒に景向寺までマラソン、半身裸で耐寒訓練、夏には丸子多摩川の水泳など立派に苦しかった思い出も今では懐かしく思い出される。

な様相が益々加わって来ましたが、このよつた最中にあつても諸先生方は常に俺達と共に居り、忙しい工場の引率の間に、工場の片隅で、或いは生の上で、隨時隨所で講義をして辛苦を共にして進むべき道を示された。この数々の教訓が今更に新たに、泉の如く湧き胸裏に蘇つて来ます。四年生の時、昭和二十年八月十五日、予想もしなかつた終戦の勅語が発布され、震える心地で挂聴しました。誠に残念の極みでした。

橋高校には、二期に兎が十期の私で今年卒業した娘がお世話になります。また富士小学校生越先生、富士見の天塚先生は田中橋では国語の小林本に橋には縁が思います。



高校  
川崎十期  
（日姓）  
安畠セツ

高木一  
川崎セツ  
(旧姓 安田)

期、四  
、そし  
兄の孫  
した。  
の担任  
中学校  
一期  
先生、  
深いと  
まると  
さんが

手で鐘をランランと鳴らし、十時頃になると食堂の方から「うどん」の音でる匂いがしたらとてた。家庭的な雰囲気でした。私も食堂で「パン」を verkauft ナルバイトをしておりました。

入学して初めての全日本球技大会、一期期末試験終後中庭に集まり、野球の行事、向ヶ丘遊園での

つも中庭でした。部活もバスケットボール、バレーボール、器楽体操、体育館のない時季は、みんな外で練習をしていました。私はバレーボール部でした。雨上がりにほん大きな空気玉で地堀し、石灰でフラインを引きました。辛いナバー、今は何でも機械で出来る時代、私がどうしてその事がとても懐かしいと同時に頑張ろうと思う気持ちを育ててくれたと思います。

卒業して半世紀以上たつ  
た今でも、橋にいろいろ  
携わって、大勢の方と巡  
り逢い生きていくことに  
感謝しています。私の頭  
の中は「あんなことあつ  
た」「こんなことあつた」  
と虚構のように駆け巡っ  
ております。

これからも孫の様な若  
い方々のエネルギーをい  
ただき、「橋バレー」を応援  
に行きたいたいと思います。  
橋高(キック)ウのます  
ますので発展を願つてい  
ます。

A black and white portrait of a middle-aged man with glasses, wearing a dark suit and a white shirt. He is looking slightly to his left. The portrait is set within a circular frame.

制も変り只ひたすら僕達は銃後の勤めと励むのみであった。二年生など、二班に分かれ回河原の住友通信(今、NEC)と溝ノ口の東北振興に夫々勤労動員され、軍需物資の生産に渾身の努力を振りつて働きました。校舎は殆々空になり最下級のみが残る有様でした。その間文季通り雨の日も風の日も、「働きに働き」勤めに勤めて来ました。然も毎日夜毎、空襲が繰り返された。たが、暫くして除隊復員して復学することが出来ました。久しぶりに下級生、同級生の諸君と再び逢つことが出来た。校舎は狭く教室は少なく、午前と午後に分かれて授業を受けた有様でした。同級生の大半は四年で卒業し、寒社会に又上級学校に進み、五年生に残った者は三十八名で卒業致しました。



## グラウンドを借りての野球部の練習

出会いを開催、ある時バレーボールの講習会があり参加したらコーチが橋の先輩堀嵜さんに再会、覚えていて下さりこれも橋の縁だなと思いました。

十年前バレーボール部の先輩堀井さんから橋が春高に出席しているから、応援に来ないかと誘われ出かけました。腰を手術して自分でばっしゃることが出来なくなつたので今度は応援にまわつて、今ではインターハイ、関



高校二十四期  
(旧姓) 天沼 文江  
(旧姓) 西澤

中学三年の時の担任教師と母親の推めで大学した私が、こんなに長い間橋高校にかかわることにならとは思つてもいませんでした。

自由で自主性を大切にしてくれた校風が好きで、子供たちの学校で高校生活を楽しんでほしくて入学させたのです。十数年ぶりに保護者として校門をくぐった私は、噴水が花壇になつていたことじょつと驚きましたが校舎は卒業したころと変わらず、とても懐かしく思いました。でも校舎は全然変わつていなければ制服姿の生徒たちに時の流れを感じたのです。

私が在校していた頃には制服がありませんでした。生徒手帳には学生らしい服装という文言と基準服といつ絵が描かれていたよつと記憶しています。当時私は同世代の女子と同じように、長いス

カートと、裾を短くしたブレザーという今ではお笑い番組のコントでしか見られない格好をしていました。校章は男子用の少さい方の物を着けていました。足首近くまであつたカートは、風雨の強い日はびっしょりで翌日はクリーニングに出さなければなりません。そんな日は、革革らしい私服で登校したこともあります。

文化祭、体育祭の日は私服校です。指定のジャージなどなかつたのですから、体育の授業も体育祭も運動しやすい、Tシャツやトレーナーに好みのジャージで、とてもカッフルだったことを覚えてます。

子どもが入学し、制服や指定のジャージがあることは本当に助かりましたが、私たち世代の服装の乱れがそれを知つて、複雑な気持ちになりました。そんな日は、革革らしい私服で登校したこともあります。

母校創立七十年、同窓会設立六十周年とまことに感慨一入であります。

戦時に「昭和の松下村塾」とさえ称された質素な校舎での母校創立十年後、溝口校舎最後の年にわが同窓会は設立されました。

高田博正(旧中二期) 上原昭夫(高校一期)、江添健一(高校三期・現相談役)、中島明・西川洋志夫(高校四期・現相談役)の先輩方が中心となり、初代会長の高田先輩のもとに設立されました。

高田会長の「同窓会がしつかりしなければ、母校は良くなりません」その警咳に接し、全・

な、水島康雄会員の浄財より給付型奨学金を目的とした「橋基金」の活動により、後輩が巣立つております。

結びにあたり、母校「橋」の百

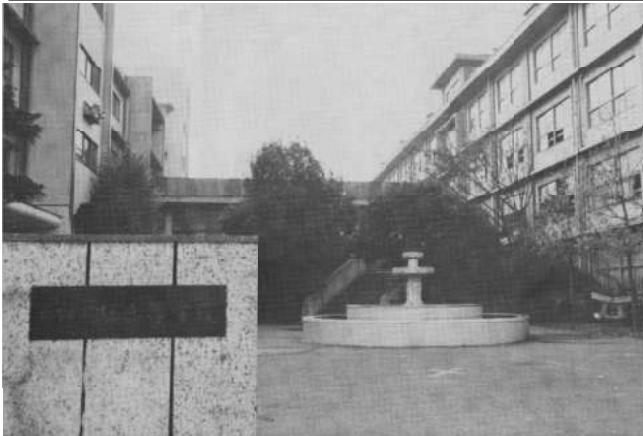
年の大計の中「悠久薫るわが橋」の洋々

たる前途を祝し、長谷川幸夫会長のもと

同窓会を「明日のロマンの砦」として、

自覚を新たにしその活動に特段のご理解

ご協力を切にお願いいたします。



旧校舎 校門から噴水を望む



89年度より着用の新制服



いともありました。  
校門をくぐった私は、  
革革らしい私服で登校し  
たこともあります。

革革の服装がそれをおもに助かりました。私が生まれた時代は、革革の服装の乱れがそれを知つて、複雑な気持ちになつたのです。校章のバッヂもなくなつてしまつたことも知つた

のです。まあ、私の好きなジャージが作るきっかけだったと

きだつた自由で自主性を大切してくれた校風はからうじて残つてわつてしまひましたが、これからも少しずつ進歩して、本質的には私の知つている橋高校で変わらずにあつてほしいと思っています。

佐伯初代校長・溝口二代・羽田沢井・杉本六代・山口義郎・細野・会田九代・府川宏校長の時、私が二代目会



同窓会名誉会長  
桑原 正

長をお預かりいたしました。私は、同窓会の使命を考えるとき次の点に留意いたしました。その一つ目は、母校愛のあまり、圧力団体と誤解されること。二つ目は、母校、校長のご要請には最善を尽くしお応えすること。さらにはPTAと同窓会は車の両輪であること。

そして魚尾校長・同窓生である十一代・藤井康雄校長・北村清市・渡辺浩司・十四代・佐々木賢司・五島三津雄・新保利幸前校長・現・松本芳弘の歴代校長先生の一方ならぬご指導を仰ぎながら、今日を迎えることができました。

母校は、現在の整備された教

学施設、普通科・国際科・スポー

ツ科の総合高校に発展してまい

りました。

年の大計の中「悠久薫るわが橋」の洋々

たる前途を祝し、長谷川幸夫会長のもと

同窓会を「明日のロマンの砦」として、

自覚を新たにしその活動に特段のご理解

ご協力を切にお願いいたします。

# 鳴 わ 橋 が 明日のロマンの砦

結びにあたり、母校「橋」の百

年の大計の中「悠久薫るわが橋」の洋々

たる前途を祝し、長谷川幸夫会長のもと

同窓会を「明日のロマンの砦」として、

自覚を新たにしその活動に特段のご理解

ご協力を切にお願いいたします。



羽田野義博氏監修  
部活で大活躍できる 勝つバレーボール  
最強のポイント50  
(メイツ出版)

羽田野さんは横浜高校16期生、向ヶ丘中、生田中で19年間、昭和60年から24年間は横浜校勤務、平成23年9月から横浜市にある星槎学園中高部



先生はいま  
5

5

の非常勤講師をされ現在に至っています。

その後少しづつ部員も増え、平成元年には男子バレーボル部が初めて春高バレーボル代表として出場し、本大会では、回戦まで進出しました。2年後の平成3年には女子バレーボル部が全国総体に真岡代表として出場し、決勝トーナメントまで進みました。これより以降、男女とも高校総体、全国総体で

なればならぬ。バレーボール部の監督として長い間、多くの方々に支えられ、素晴らしい選手たちとの出会いがあり、「数多くの思い出を作ることが出来た」と、感謝の気持ちでいっぱいです。」と締めくくられました。羽田野さんはとても人にお孫さんがいます。息

子さんたちが小さい頃から、まことに父親らしいことが出来なかつた分、お孫さんの触れ合いを大切にしているのです。



平野哲男先生

平野先生は塚越中学校  
を経て一九六〇（昭和35）  
年4月から一九九〇（平成2年）3月までの

30年間を本校に勤務されました。

実際自製中学3年生だった15歳の時、故郷の茨城県から同級生と共に勤労

た。橋高校に赴任し、美術・工芸を担当しました。



「学徒動員 —15歳の死と生」

その後少しづつ部員も増え、平成元年には男子バレーボール部が初めて春高バレーボール部として出場し、本大会では3回戦まで進出しました。

2年後の平成3年には女子バレーボール部が全国総体に県代表として出場し、決勝トーナメントまで進みました。

これより以降、男女とも高校総体、全国総体で名を馳せ全国の「橘」として活躍をすることとなりました。

特に女子は平成6年の全国総体から20回の出場を果たし、記念すべき大会で初優勝という快挙を成し遂げてくれました。これは県内の中学校から当時活躍していた子供たちが橘に来て、厳しい練習で耐え、なお一層頑張ったことで強いチームが出来たとのこと。県内だけの選手で勝てた事がとても重要なたたこうです。

これから指導者は子供たちの資質をよく見極め、気持ちを切り替えて、どうしたら強くさせられるかということを考えて行か

本校に勤務され  
て取材で訪問す  
るとアトリエ  
で日本アンデ  
パンダン展に  
出品する油絵  
の作品を制作  
中でした。一  
九九九年に出  
品した「  
点合わせ(一  
二八×三〇)  
」の『学徒動員  
』15歳の死と  
生』は好評を  
博し、現在平  
塚市博物館に  
常設展示され  
ています。こ  
の絵の題材と  
なったのは、

「学徒動員 一15歳の死と生」

高校三十三期

同類卷

(昭和56年3月卒)の大同窓会を平成25年2月9日川崎日航本部アル橋の間に開催されました。ある日の酒場で友人と2人での会話をから大同窓会話が盛り上がり、ひょんなことから発案し手探り状態で起動した初の学年大同窓会。

クラスごとの会合はいくつは開催していくと風の便りで聞いていましたが学年会体となると考えましたが、構想から表現まで丸3年、卒業から30年以上という月日が経過していくため一冊の卒業アルバムを手がかりにまず記憶を蘇させることから始めました。少ないつてを頼りに、2人が5人、5人が10人、10人が30人と、有志の仲間が日増しに増え、懐かしい顔ぶれ。

中良也先生、浦上瑞恵先生、石井邦子先生、座間秀夫先生、大多和雅子先生にもご臨席賜り笑い、アリ涙アリ（感動のあまり）の久しぶりの再会のひと時でした。

学生時代の友人って不思議ですね。心置きなく屈託なくおしゃべりできる。同窓会やクラス会は「心の癒しエキス」ですかね。

この時は心から「時間よ止まれ！」って思えたのは参加費全貢でほんかつたのではないかでしょうか。

今回メモリアル記念として卒業アルバムと大同窓会の当日の写真を盛り込んだDVDを作成し出席者と希望者に記念品として後日送らせていただだきました。

当曰欠席された方より、卒業アルバムを事情があつ

て紛失された方などから  
沢山のお礼の言葉をいた  
だきました。

偶然にも満50歳という  
節目の年に素晴らしい会  
が開催できましたこと、橋高  
等学校同窓会長谷川会長  
をはじめ、沢山の有志の  
方々のご協力に感謝の一  
言です。

最初で最後の大同窓会  
とタイトルを命名しまし  
たが、集まつてくださった  
方々の笑顔や、「企画  
してくれありがとう!」  
と声をかけてくださって、  
大幹事会やる気になつて



## 士六期生の「個展」

# 開催される

高校16期生（昭和39年卒）の千葉京子（旧姓武井）さんと故逢田俊一さんの個展が銀座と京橋の画廊で開催されました。

設して美術工芸品作成に情熱を掛けていました。在職中から製作品の発表を銀座の「こげやし画廊」で開いておりました。

窪田俊三尾

2013.3.31 [sun] 1-4/6 [sat]

2013/03/31

いまと  
もしかしたら20年後が、  
10年後かはたまた20年後  
か…又、実現するかも  
しません。  
今回出席されなかつた  
方もされた方も、その時  
まで皆さんお元氣で、  
また会える日まで…

記 藤野 ゆかり  
(旧姓 寺田)





方々画見学に訪れました  
作品は難しいもので数年  
かけて製作。

三月三十一日午後から  
銀座のホテルのラウンジ  
で「窪田俊三さんを語る  
会」も開かれ、多摩美大  
同級生、橋同級生・旧職  
員等多くの方が出席しました。

千葉京子さんは、橋在  
学中から「絵」に親しみ  
卒業後本格的に始めまし  
た。美術の仲間「塵」とい  
う主人の理解もとで成果  
をあげきました。

二十年前、銀座の「松  
島画廊」で初の個展を開  
き、その後文化庁の推薦  
で海外での研修もしてま

2013.3.31  
ました。当初は「抽象画」  
が中心でしたが、最近では新しい試みをして今回  
の古典は「段ボール」を  
使用した作品を造り挙げ  
ました。本人曰く「段ボ  
ルは固いもの、柔らかい  
ものがあって何かできる  
のではないか」と考みて  
試行錯誤のすえ納得の作  
品ができたといつており  
ます。

故・逢田俊三さんと千葉  
京子さんは過去二回「二  
人展」を開いており時折  
情報交換をしておりまし  
た。千葉さんの個展は三  
月一十五日から三十日まで  
で京橋で開催されました。  
(長谷川 幸美 記)



年会費賛助金

会費を納入いただいた会員諸氏に敬意を表  
ここに芳名を記載いたします（敬称略）

平成23年4月1日	至 平成25年3月31日	年会費納入会員御芳名
校5期・桑原正、渋谷睦	夫、内田信光、石井翠、	敬子、溝江光連、近藤誠、
伊藤敏和、鶴岡睦、吉澤	明夫、岡部成實、山田信	引地雅、河村澄江、関山
夫、深澤壽徳、成川昭、	澤八重子、内藤保、	泰司、小林信義、新井紀
木島禎三、山本直克、伊	澤八重子、内藤保、	元、高校12期・瀬尾伸彥、
島久次、旧中3期・山田	6期・木下正雄、秋山房	一、牧野重夫、岩瀬清、
惠一。旧中4期・植林忠	利、国兼隆昇、川勝敏一、	入島康充、遠藤義云、片
郎、東山伸夫、旧中2期・	水江知之、小口和夫、佐	山茂、持田興子、上村修、
成川薦、手塚七五郎、矢	野薰、今富光男、吉倉臣	高校13期・土屋義明、原
島久次、旧中3期・山田	泰、高校1期・中村憲一、	功、山崎行男、市川幸一、
惠一。旧中4期・植林忠	桑原敏等、高橋伸行、斎	中村徹夫、武田三千代。
郎、旧中・米木宏育、併	藤和子、濱田正一、斎藤	高校14期・早津晴石、斎
巻一、内藤政幸、大部利	和夫、水嶋康雅、高校8	藤後範、桑野敏子、新木
忠、併中2期・百々清治、	上次郎、羽賀繁雄、藤本	士郎、向山迪子、香山正
高校2期・沼田守弘、高	和男、福嶽穂、齋賛夫、	一、加藤五朗、田中吉郎、
校3期・松田陽介、廣幸	松本久子、江口昭、吉田	斎藤克也、小澤暁弘、菅
康敏、長野慎一、松原重	圭三。高校9期・岸徹、	士郎、向山迪子、香山正
享、田畠和夫、平川誠道、	江成常夫、高橋玲子、井	野照也。高校15期・大宮
伊藤順健、古尾谷景、梅	浦輝久雄、平塚寿々子。	勇、持田一成、水谷泰雄、
田泰雄、長戸輝雄、三木	吉田泰雄、長戸輝雄、藤本	和子、渡部泰彦、岡村節
孝、田邊一郎、矢野健治、	和男、福嶽穂、齋賛夫、	高橋陽子、秋葉謙治、高
武笠敏治、木野内清壽、	伊藤順健、古尾谷景、梅	吉村さよ子、栗原一夫、
田幸雄、田子義敏、井口	郎、三竹里美、小林昌輝、	校16期・千葉泰子、武内
稻生行秀、森猛、梶川	後藤友子、饗庭満、川崎	和子、渡部泰彦、岡村節
幸夫、阿部昌裕、鈴木正	七。高校11期・長谷川	高崎隆史、前原ヒサコ。
氏紀敏、武内洋子、清水	富、斎賛昇、関口勇一、	子、小澤亮子、瀧田岳子、
青弘之、関口康夫。高	高校10期・伊藤久男、清	吉村さよ子、栗原一夫、
	藤真由美、高瀬秀弘、神津	和子、渡部泰彦、岡村節
	秀昭、市川伸一、植木峯	高崎隆史、前原ヒサコ。
	沢久子、高瀬秀弘、神津	宏二、松本安弘、伊藤秀
	惟野茂、佐藤千代子、黒	雄。高校24期・新井のり
	澤久子、三石幸平、廉	野口信弘、中山安子、山
	野千恵子、三石幸平、廉	野口信弘、中山安子、山
	美沙子。高校60期・北川	野口信弘、中山安子、山
	美沙子。高校60期・北川	62期・大山園未、石田純
	川本純江、森田友佳、亀	川本純江、森田友佳、亀
	岡佑太、平良俊介。高校	一、佐々木一樹、矢野敦
	藤利之。高校26期・樋口	士。高校63期・遠藤由佳
	正雄、安達彰、御手洗修	子、白由貴。高校64期・
	柏村恵。	菅佳菜子、常藤洋一。

特別贊助金  
納入者御芳名

## 会費納入のお願い

有志の皆様には今

寶鏡（たからめい）へ見ひ三月、三月

橋高校同窓会は、今會

会費より運営されていく  
す。

この会費を基に、毎年

化祭への贊助のほか、部

会場時の賛助祝金拠出

寄附金

—て い ま す。今 般 の 母 校 70

部全国制覇に際しても賛助金を拠出いたしました。

「たちばな」を発行でき  
ますのも、ひとえに会員  
諸氏の会費納入のお陰で  
す。

会員の増大に伴い、会報発行の送料の負担も大きくなつきました。さ

らに、賛助を行う母校の  
部活動、文化活動等も増

え、うれしい悲鳴ではあります  
が、支出も増加して  
いる現状です。

何卒ご理解を賜りまして  
この多くの多くの会員の皆様

が会費を納入いたたまひます。ようお願いを申し上げ

会費は2年分で4千円  
となります。

会員の皆様には  
この会報に郵便局の「私  
入用紙」を同封させてい  
ます

お詫びいたしました。

寄附金等納入の際は、  
一報くだされば払込用紙  
を送付、または「控を」

連絡いたします。

—

会田場時の養助社全般

九月一十九日(日)午前  
十時から午後三時まで  
展示及び演技(吹奏楽・  
軽音楽・ダンス等)が観  
覧できます。

同窓会コーナーも設置  
しますので、皆様お誘い  
あわせの上、ぜひ母校を  
お訪ね下さい。

## 橋花祭の ご案内

活躍する回生

顧問	西川洋志夫	(4期)	小林昌雄	(3期)	宿田任一
江添健一	(3期)	中島明	(4期)	西川洋志夫	(4期)
斎藤和夫	(7期)	北谷瑞穂	(13期)	羽田野義博	(16期)
澤野千恵子	(17期)	問(母校教員)		葛蘭泉	(全日制)
内藤守	(定期制)	永村弘子	(全日制)	大塙光夫	(定期制)

昭和薬科大卒業 その後  
薬剤師 学校薬剤師として  
て活躍され 平成二十一年  
には文部科学大臣賞を受  
賞されるなど、50年に及  
ぶ学校薬剤師の功績が認  
められ、今回の受章とな  
りました。

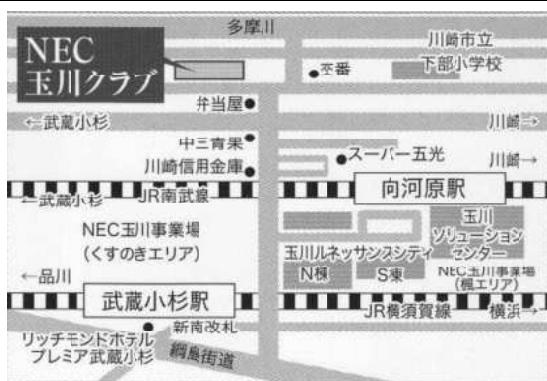
川崎市中原区中丸子	川崎市立橘高等学校内	同窓会事務局宛	五六二
小林 昌雄(3期)	江添 健一(3期)	中島 明(4期)	宍田 仁(2期)
西川 洋志夫(4期)	斎藤 和夫(7期)	北谷 瑞穂(13期)	内藤 実(3期)
羽田野 義博(16期)	澤野 千恵子(17期)	高橋 泰子(2期)	内藤 実(3期)
問(母校教員)	内藤 実(2期)	内藤 実(2期)	内藤 実(2期)
高橋 泰子(2期)	高橋 泰子(2期)	高橋 泰子(2期)	高橋 泰子(2期)
内藤 実(2期)	内藤 実(2期)	内藤 実(2期)	内藤 実(2期)
大塚 光夫(2期制)	大塚 光夫(2期制)	大塚 光夫(2期制)	大塚 光夫(2期制)

# 同窓会設立六十周年 記念祝賀会のご案内

日 時 平成25年6月22日(土)  
午後2時~4時  
場 所 NEC玉川クラブ

会費  
参加申込 五千円（当日集金）  
同封のはがきにより、お申  
込ください。なお、準備の  
都合上、6月5日までに  
ご投函をお願いします。

NEC玉川クラブ



川崎市中原区下沼部 1959

TEL 044-434-1510

編集委員	鈴木	正則	(11期)
澤野	厚子		
川本			
牧野			
天沼			
南端			
國分			
井上			
轟			
巖			
64期	60期	60期	53期

編集委員  
（天治算文）

△会報の隔年発行も10年  
継続できました。さあ、  
とりあえず、また10年、  
頑張りましょうか!

とは本会代食・高田博正氏のことばです。今回寄稿していただいた皆さんは、年代は違えどもまさに「橋の絆」でつながっているのだと改めて伝えられた気がします。編集委員も世代を超えたメンバーでした。

代議員会開催について  
本年度の代議員会は、  
六月二十一日(土)正午  
より、母校大會議室において開催します。  
平成24年度決算報告、  
事業報告、平成25年度予  
算案、事業計画を審議い  
たします。

また、本年は役員改選にあたりますので、合わせて審議され予定です。各期代議員の皆様には事務局より案内を送付いたしますので、ご出席をいただきようお願いいたします。

△同窓会報「たちばな」第15号は同窓会設立60周年の特集号となりました。△世代ごとの会員より寄稿いただき、紙面に華を添えていただきました。

△「皆」の「橋」の同窓  
という一本の糸でかたく  
ぱぱい「へらぶね」

# 短 信

同窓会役員体制  
(平成23・24年度)



渡辺  
真央  
（61期）

# 代議員会開催について

また、本年は役員改選にあたりますので、合わせて審議される予定です。

## 編集後記